

大橋鉄工、秋田工場を本格稼働

自動車のエンジン部品や変速機部品を製造する大橋鉄工(本社北名古屋市)は、秋田県横手市で新工場を本格稼働させた。投資額は10億円。自動変速機(AT)部品などを生産する。国内では愛知県外に初めて進出。BCP(事業継続計画)対応の強化に加え、現地の人材育成に力を入れることで、東北の自動車産業の発展に貢献する。日本のモノづくりを秋田から世界に発信していく方針だ。

(記事は3面に)

NEWS
ピックアップ



秋田工場が本格稼働

大橋鉄工 AT部品生産、BCP強化

自動車のエンジン部品や変速機部品を製造する大橋鉄工(本社北名古屋市、大橋雅史社長)は、秋田県横手市で新工場を本格稼働させた。投資額は10億円。自動変速機(AT)部品などを生産する。国内では愛知県外に初めて進出。BCP(事業継続計画)対応の強化に加え、現地の人材育成に力を入れることで、東北の自動車産業の発展に貢献する。日本のモノづくりを秋田から世界に発信していく方針だ。

(秋田県横手市・菊地治滋)

秋田進出に伴い、2015年11月に大橋鉄工秋田を設立。秋田県、横手市と工場の立地協定を締結し、横手第2工業団地の1万5千平方メートルを取得した。

新工場の延べ床面積は3900平方メートルで、16年春に着工、同年8月に建屋が完成した。17年2月から部品

の量産を開始。同月下旬に新工場の完成式を開き、主要取引先のトヨタ自動車やトヨタ自動車東日本、県や市の関係者ら約60人が出席した。

新工場で生産を始めたのは、ATを構成するパーキングロード、シフトレバーをパーキングレンジに入れ



自動変速機部品を生産する大橋鉄工秋田(秋田県横手市)

部品やエンジン周辺部品などを現地生産したい考えだ。

雇用を通して、地元経済の活性化に寄与する。現在の従業員数9人。将来的には50人体制とし、売上高10億円を狙う。

大橋鉄工の大橋社長は「地域の皆さまと助け合いながら、メイド・イン・アキタ、メイド・イン・ジャパンの製品を世界に届けていきたい」と話している。

大橋鉄工は1917年に創業。エンジンやボディー部品などの開発から設計、製造を手掛ける。トヨタグループに直接部品を納める1次サプライヤーだ。1次サプライヤーの秋田県進出は初めてで、秋田県や横手市など地元関係者は自動車産業発展の好機になると期待している。